

令和8年度第1回大府市ひきこもり支援地域協議会 要点記録

日時	令和8年6月26日（金） 午後3時30分～4時45分
場所	大府市役所2階203会議室
出席者	【委員】 山田武司、來多泰明、外波祐二、上田美樹子、宇野敬子、社本このみ、杉原直樹、鵜飼数正、大橋房代、井上美妙 【事務局】 福祉部長 原田好美、福祉まると相談課長 中本真、福祉まると相談課係長 杉浦英憲、福祉まると相談課主事 佐野慎二、地域福祉課長 小島紳也、健康未来推進課長 久野義鎮、健康増進課長 島田真希、学校教育課スクールソーシャルワーカー 山田誠、教育支援センター 蟹江修
欠席者	【委員】 竹内美喜、天竺なな 【事務局】 こども若者支援課長 久野倫太郎 学校教育課指導主事 武田佳大
傍聴者	3名

敬称略

1 あいさつ（会長）

昨年度は、中学校卒業後の支援の引継ぎとして支援情報シートの活用が始まり、参加支援事業について協議した。本日は昨年度の実績や今年度の計画、中学校卒業に伴う切れ目のない支援について意見交換をお願いしたい。

2 自己紹介

各委員、事務局より自己紹介

3 議題

（1）福祉まると相談課の体制について

—資料に基づき事務局から説明—

—質疑応答・意見—

質疑なし

（2）大府市ひきこもり支援事業について

—資料に基づき事務局から説明—

—質疑応答・意見—

【委員】

福祉まると相談課の常設相談で受けている、ひきこもりに関する相談件数はどれくらいか。例年との比較で増えているか。

【事務局】

相談を役所に相談しようというハードルは下がった実感があり増えていると思います。比

較的相談しやすい内容は常設相談で対応し、長期的支援や専門的支援が必要なケースは専門相談につないでいる。

【委員】

緊急性のあるケースは、専門相談ですぐに対応することは難しい。

また、ひきこもり支援は継続相談が多く、支援期間が長期化しやすい。新規相談枠の確保が課題である。

【会長】

専門相談の枠をどう確保するかは課題である。継続相談の受け皿として、グループ相談やふぁみり～C a f e など、多様な支援の場を育てていく必要がある。

【委員】

ひきこもり支援は継続期間が長く、本人に会えないまま数年経過することも多く、その場合支援が進んでいるかの判断が難しい。どのように考えているか。

【委員】

本人に直接会えないケースも多いが、本人支援だけが支援ではない。家族が疲弊している場合は、まず家族支援が必要である。家族への助言や関わり方の支援が、結果として本人への良い影響につながることもある。居場所につながることで、継続的な支援がしやすくなる。

【委員】

ふぁみり～C a f e では、保護者同士のつながりが生まれている。終了後も交流が続く場面があり、横のつながりづくりとして有効であると感じている。

【委員】

不登校とひきこもりでは状況や支援の時間軸が異なる。不登校は比較的期間が見えやすいが、ひきこもりは長期化しやすい。内容によっては分けた形での交流も必要ではないか。

【会長】

以前は分けて実施していたこともあった。現在は内容によって工夫している。他に相談の傾向などはあるか。

【委員】

ひきこもりに関する相談は増加傾向にあり、特に若年層の相談が増えている印象がある。中学卒業後や高校中退後に進路が決まらず、社会とのつながりを持てないままひきこもり状態となるケースが目立っている。

【委員】

ネットやSNSなどを通じて好ましくないつながりができることもある。若者世代の流行について情報収集することも重要。ネットで気軽に相談できる仕組みがあるとよい。

【委員】

小中学校の段階で、安心して相談できる経験を持てるかどうかは重要である。早期から相談できる関係性づくりが、将来的な支援につながる。

【会長】

学校以外にも、相談できる場所や人があることが大切である。多様な支援の入口を確保していく必要がある。

（３）中学校卒業後の切れ目のない支援

—資料に基づき事務局から説明—

—質疑応答・意見—

【委員】

支援情報シートについて、手帳所持の有無や進路先、出席扱いの背景（フリースクール、別室登校など）が分かる項目があると、より支援につなげやすいと感じる。

また、引継ぎ同意欄について、誰がいつ同意を取得したのか記録できるとよい。また、何に対する同意なのかがより明確に示される必要がある。

【事務局】

支援情報シートは、もともと、学校内での情報共有を目的として作成されたものであり、今回、中学校卒業時の引継ぎに活用した。初年度の実施を通して、運用上の課題が明らかとなった。

また、ひきこもり支援の視点から、中学3年生の卒業時の引継ぎを想定していたが、中学3年生以外のシートも提出されたことから、市との連携ニーズが、中学校3年生以外にも存在することが分かった。

【委員】

このようなシートがあることで、将来相談につながった際、過去の経過が分かる点は非常に有効である。

一方で、引継ぎ同意の意味として、すぐに支援が必要なのか、将来困った時に備えて情報共有しておきたいのか、その意図が分かるとよい。

【事務局】

同意の趣旨が曖昧なままでは運用が難しいため、今後整理が必要である。学校に確認しながら調整を進めた。今回は7件であったが、件数が増えた場合の仕組みづくりも課題である。

【委員】

引継ぎ時期は、いつ頃が適切か。

【事務局】

引継ぎのタイミングが難しい。次の進路の結果を踏まえると、実際の引継ぎは3月下旬に集中するが、学校現場は忙しい時期。短期間で十分な情報共有を行う難しさがある。

【会長】

初年度の実施で課題が見えてきた。課題を整理し、より良い引継ぎ体制にしていきたい。

4 情報交換

【委員】

制服の寄付活動について、経済的・心理的負担を抱える家庭への支援として、不要となった制服の寄付協力について情報共有。

【委員】

他地域の事例として、ひきこもり支援の居場所やスタッフを紹介する広報紙を紹介。活動内容や雰囲気、人柄が伝わることで、当事者や家族が親しみをもちやすくなる有効な取組であるとの事例紹介。

5 その他

【事務局】

「ひきこもり支援機関ガイド」の修正について依頼した。次回会議は令和9年1月28日を予定している。